

# 4歳児の個の育ちと仲間関係の育ち・協同性の芽生え

目白大学 人間学部 子ども学科 松永愛子

## 1. 本研究の目的と方法(1)目的

なぜ個の育ちと仲間関係の育ちをとらえるのか

### 遊びを中心とした保育

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"><li>子ども一人の遊びのイメージが、集団の遊びに影響を与えたり、集団の遊びのイメージが一人の子どもの遊びへ影響を与え、次第に目的のもとに協力し合う仲間関係が育つことがある。</li><li>子ども達はお互いに刺激しあいながら、新たな遊びの<u>目的を自分達で見つけていく</u>。</li></ul>
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"><li>保育者が、子どもの姿の複雑さを読み解き、援助を行うと、遊びが深まり、広がる。</li><li>子どもに必要な経験をもたらすことができる。</li></ul>

→4歳担任、大徳先生が書いたカズマ君(仮名)の事例を通して、「子どもの姿」や「保育者の援助」の課題を検討

→教師主導型保育を40年以上してきたが、遊び中心型保育へ転換を目指して5年目の星の子幼稚園の現在の事例。

→ディスカッションの場で、先達の実践者からのご意見をいただきたい。

同時に教師主導から、遊びを中心とした保育へ転換を目指す園がおられましたら、意見交換をさせていただきたい。

## 1. 本研究の目的と方法(2)方法

### なぜ個の育ちと集団の育ちをとらえるのか

動画前半

- ・松永は、「教師主導型」から「遊び中心型」の転換過程を追う研究をしたいと思い、星の子幼稚園の観察、研修をさせてもらっています。
- ・本動画にて、保育者の書く保育記録等の分析からわかつてきた「保育方法」や「遊びの質の変化」を話します。

動画後半

- ・担任Dは、4歳の担任をしています。本動画にて、2022年4月～7月のカズマ君(仮)の事例を話します。
- ・加えて、カズマ君(仮)の事例記録を配布します。事例記録は、本動画よりも密な情報が詰め込まれています。

→担任D先生の「事例記録」も是非読んでみてください。

→お気づきの点、ご意見、ディスカッション前でもOKです。ぜひ、お聞かせください！ [Matsunaga@mejiro.ac.jp](mailto:Matsunaga@mejiro.ac.jp)(松永)

## 目次 4歳児の個の育ちと仲間関係の育ち・協同性の芽生え

1. 星の子幼稚園の概要

クラス数、園児数、周囲の環境等

2. 遊び中心型保育の始まり(2017年まで)

保育方法の変化

3. 遊び中心型保育の深まり  
(2018年～2021年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤—

4. 【D先生】保育者と子どもの相互関係の中で遊ぶ保育の実際(2022年)－本編－

5. 【D先生】保育者と子どもの相互関係の中で遊ぶ保育の実際(2022年)－NG集－

6. まとめ－遊びの豊かさが支える個の育ちと集団の育ちの密な関係性－

住所:北海道 札幌市  
(札幌駅と小樽駅のあいだ)



→海と川と山が近くにある自然豊かな環境







## 1. H幼稚園の概要

## クラス数、園児数、周囲の環境等

	クラス数	各クラスの子ども数	各クラスの2号認定数	各クラスの保育者数	
0歳	1クラス	約5名		3名 + フリー	
1歳	1クラス	約15名			
2歳	1クラス	約15名		3名 + フリー	
3歳	3クラス	約25名	約20名	2名 + フリー	
4歳	3クラス	約30名	約20名	2名 + フリー	
5歳	3クラス	約30名	約20名	2名 + フリー	

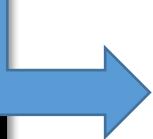
- 01歳 45歳 壁の無い隣接クラス
- 2号認定(各クラス約20名、全体で約180名)
- 園バス4台、8コース、2時間添乗

	約40年間	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出来事			D先生就任	園庭改築	新園長		子ども園化 園庭大規模工事
保育内容	一斉活動	1クラスのみ 遊び中心		全クラス 好きな遊び の時間	外遊び 中心	外遊び 中心	室内 コーナー保育 本格開始
松永関わり					出会い	観察	観察と研修

- ・新園長就任
- ・室内は、「コーナー保育」に。
- ・室内より、外を選ぶ子が多くいた。

⇒様々な方法を試した結果、ある程度、今に繋がる保育方法が整った時期

## • (1) 環境 ①「保育室」コーナー保育化



⇒「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる



→「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

- (1) 保育方法①「あつまりの時間の保育方法」



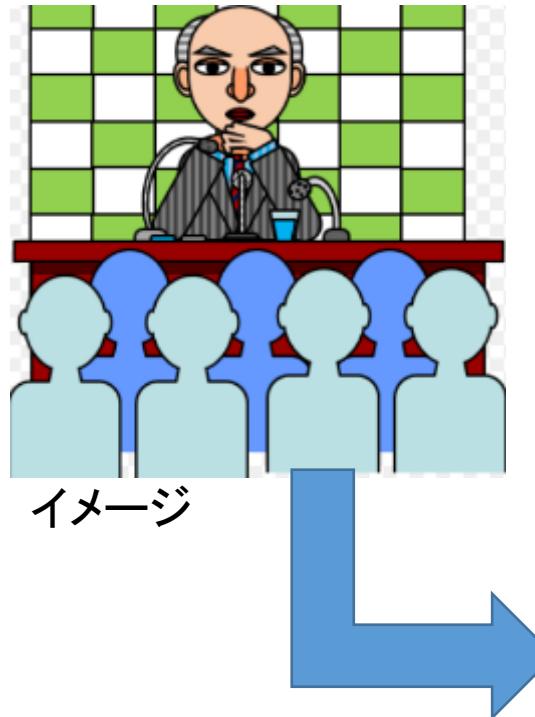
→「見るー見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

- (1)保育方法 ②「行事の進め方」



→「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

- (3) 振り返り方法 ①会議のしかた



⇒行事についてどこを変えてどこを残すか、たくさん話し合った

2月20日木曜日			保育	175
児童男の子	3人	女の子	0人	合計
時間	活動			出移・退屈
	「一日入園出し物練習 ひなまつり製作」 コアペーティー			子どもの様子
10:00	体操、入室、封毛糸			たいらで→20・21日は東京に胆道 閉鎖症の検査に行く ため、お休みがあります。
10:15	ぱら組と一組園出し物練習			えいこ→コアペーティー中に リラクゼーションさせていくコアペ カまくらの中に入りました しまう。おかげでコアペ を飲む時に入りたま はまくらの中に入って 飲んでいて、その時に こぼす。2人ともお話し コアペをこぼした部分を スコobaで拭った。おかげ でこういうことをする遊び も時間に遊べなくなりこ がれたり、反省していました。
10:30	ひなまつり製作			
10:45				
11:00				
11:15	05 ココアペーティー			
11:45	お弁当準備			なおき→今朝お腹が痛かった ようで11:30に早退する。 園では元気に過ごしました。
11:50	お弁当			
12:00				
12:15				
12:30				
12:45	片付け			<一日入園出し物練習>
13:00	外遊び			歌もお番組見え、いい声で歌うこと ができた。今日は上手だったので 1回だけ練習したが「またやりたい」と
13:15	陣園準備			ねばねばちゃんがよい、やる気満々だった。
13:30	帰りの会			<コアペーティー> ワカルズ3グラムに分かれ、まくらで コアペを飲んだ。男の子は一気飲みで 女の子はゆっくりのんびりと飲み、皆 ニコニコだった。
メモ	<u>お休み</u>			



### (3)振り返り方法 ②日誌の書き方

月	日	曜日	保育日数	1月22日	行事	英会話升級会	午後担当	小組・工作・美術						
一月	26	土曜日	休											
今月の 環境作り実習としてイターフェスを意識して、年長組と子階に玉き物実習で ねらいを付けて上げる。					自ら色々なことに挑戦し、目を向けて取り組む経験をする。 遊びじこじこ実習で遊びながら玉き物と子階に向ひ日々に何がでて取れんか ねらいの内容									
クラス	さくら	クラス	さくら	クラス	さくら	クラス	さくら	さくら						
次席														
部屋の環境と子どもの遊び（写真）														
														
①子どもの姿勢取り（どのような経験をしているのか）②無い（次に必要な経験は何か）③環境の構成														
④機会提供														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														
例文														

## ドキュメンテーション

⇒ネットで共有される。先生同士の学びが起こる

3. 遊び中心型保育の深まり  
(2018年～2021年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤—

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG	行事MTG	行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

葛藤①「子どもが選ぶ遊びを大事にしたい(記録15回/82日)」が、「どこまで関わっていいのか(記録15回/82日)」

5歳児	・探求的な遊びのモデルのいない園庭に出ていくだけでは、協同性が育ちにくかった。 ・室内では、個の技術を競う遊びが多く(コマ、けん玉)、協同性が育ちにくかった。
保育者	・園庭に散在し、動き回る、子ども一人一人の「子ども理解」が難しかった。 ・カリキュラムを意識し、「子ども理解」をもとに「環境構成」をする力が上がらなかつた。

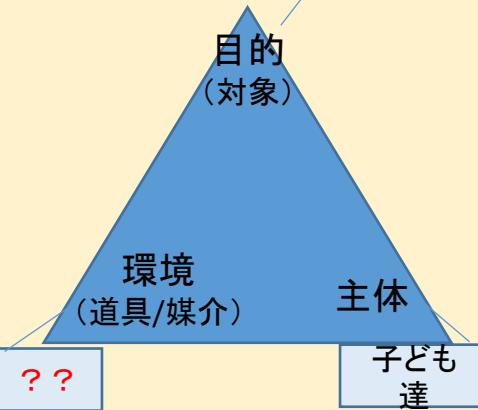
→実態として、行事前は、保育者主導になってしまい、保育者も子どもも苦しかった。  
「遊びから行事につなげたい」という思いが生まれた。

外遊び中心時代

子どもが決めたのに、  
子どもだけでできない

2018年

行事:音楽祭に出る！



子ども達は、目的のために、どう環境と関わったらよいのかわからなかった。

保育者の、子ども理解から環境構成する力が十分ではなかった



→行事直前、時間が足りずに、トライアングルと、鍵盤ハーモニコを同時に練習する光景(先生もつらい涙)

3. 遊び中心型保育の深まり  
(2018年～2021年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤—

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG		行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

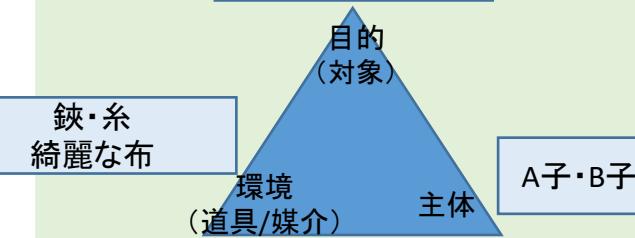
葛藤②「興味関心が続く遊び」を大事にしたいが、「援助しても遊びが続かない(記録8回/82日)」

5歳児	・遊びの目的を見つけにくかったり、見つけても一時的なことが多い ・紙ヒコーキ、折り紙等、幼く感じる遊びが多かった
保育者	・「子ども理解」をして興味関心を読み取ろうとしていた。 ・一方で、保育者からの「知識・技術・文化の伝達」は少なかった(絵本、図鑑、製作技術等)。

→「カリキュラム」をもとに「ねらい」を考えるMTG、子ども達に伝えたい知識・技術・文化のアイデアを話し合えるMTGが求められるようになってきた。

興味を大事にしたいけど  
遊びが持続しない

かぼちゃをデコ  
レーション



デコレーションした  
かぼちゃ

遊びの次の目的が見つから  
ない

ねらいをもとに保育者の知  
識・技術文化の発信が十分  
ではなかった



⇒地域名産のかぼちゃに飾り付けることを思いつきました。その後、教室の片隅に...

待望の園庭完成



3. 遊び中心型保育の深まり  
(2018年～2022年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤—

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG		行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

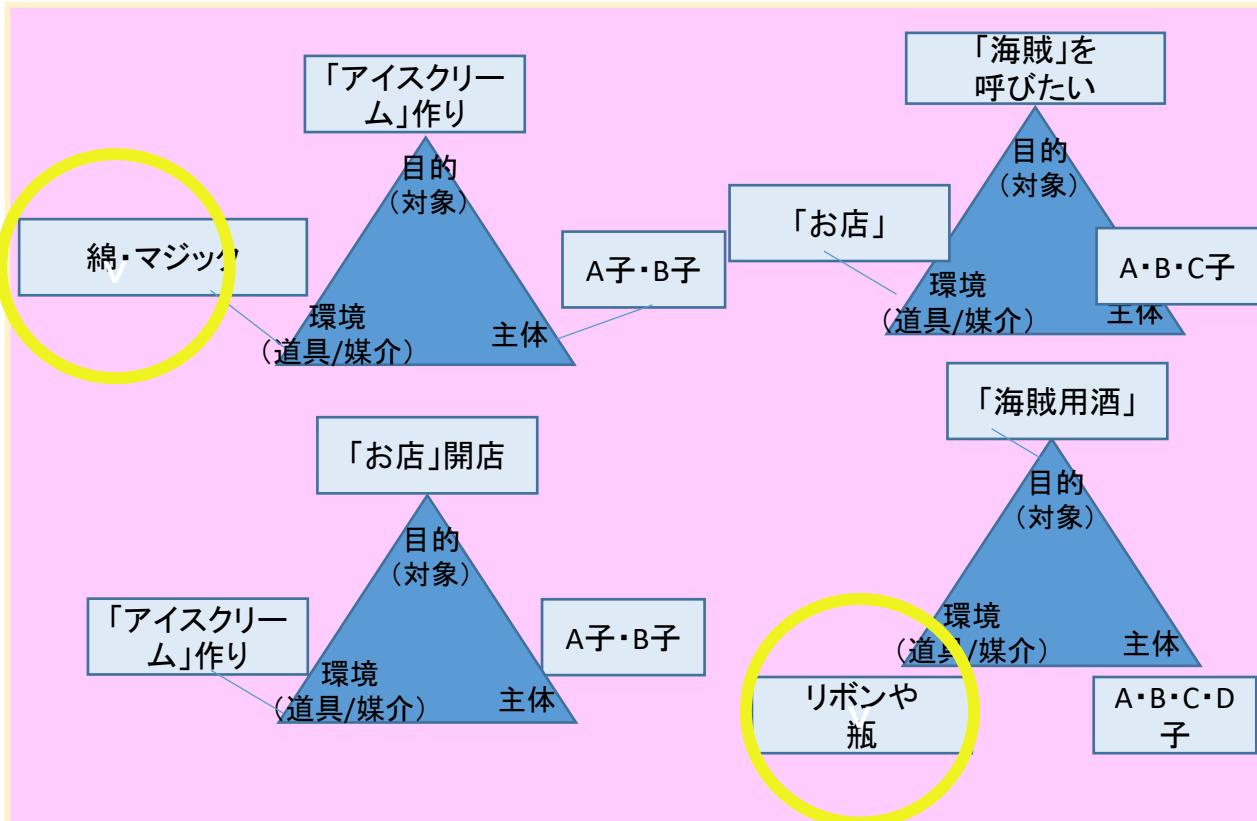
葛藤③「もっと遊びが面白くなるために、しかけてみよう／のってくれるだろうか（記録23回/82日）」

5歳児	・共通のイメージをもとに、遊びと遊びがつながり、続く。（ステージごっこ→演者が集まりフェスへ等） ・時間をかけて試行錯誤する遊びと遊びがつながり、続く。
保育者	・「子ども理解」をして興味関心を読み取ろうとしていた。 ・保育者からの、知識・技術・文化を伝える方法を常に試みていた。

→保育者にとって、子どもの遊びは、「保育者と子ども、子ども同士の相互関係の中で表れる」ととらえられるようになってきた

## 「コーナー保育」本格導入時代2

しかけてみよう／のってくれるだろうか



環境と関わりながら目的が生まれていく

保育者の幼児理解から環境構成をする力  
知識・技術の発信、教材選択の力が表ってきた



2021年

# 10days記録



月のねらい  
週(10日)のねらい

歳児組	月 日～月 日	月のねらい	
担任( )	担任( )	2週のねらい	
担当者( )			
お預り組みと活動の反省			

幼児の姿と援助反省

タスク・決定事項	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)	日(金)	
アイデア・メモ						
タスク・決定事項	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)	日(金)	
お預り組みと活動の反省						

環境構成のアイデア

タスク・決定事項

残った課題と  
新たな願い

⇒遊びの連續性、ねらいと反省が意識されやすくなった

3. 遊び中心型保育の深まり  
(2018年～2022年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤—  
まとめ

外遊び中心時代

子どもが決めたのに、  
子どもだけできない

「遊び保育論(コーナー保育)」本格導入時代

遊びが持続しない

しかけてみよう／のってくれるだろうか

行事:音楽祭に出る！

かぼちゃをデコ  
レーション

目的  
(対象)

鉢・糸  
綺麗な布

環境  
(道具/媒介)

主体

A子・B子

環境  
(道具/媒介)

主體

子ども  
達

??

デコレーションした  
かぼちゃ

子どもの協同性に必要な  
経験が積みあがらない

保育者の幼児理解と  
環境構成の力が必要

遊びの次の目的が見つから  
ない

保育者の知識・技術の発信、  
教材選択の力が必要

アイスクリー  
ム作り

目的  
(対象)

綿・マジック

環境  
(道具/媒介)

主體

A子・B子

「海賊」を  
呼びたい

目的  
(対象)

お店

環境  
(道具/媒介)

A・B・C子  
土1杯

海賊用お酒

目的  
(対象)

お店開店

目的  
(対象)

アイスクリー  
ム作り

環境  
(道具/媒介)

主體

A子・B子

リボンや  
瓶

環境  
(道具/媒介)

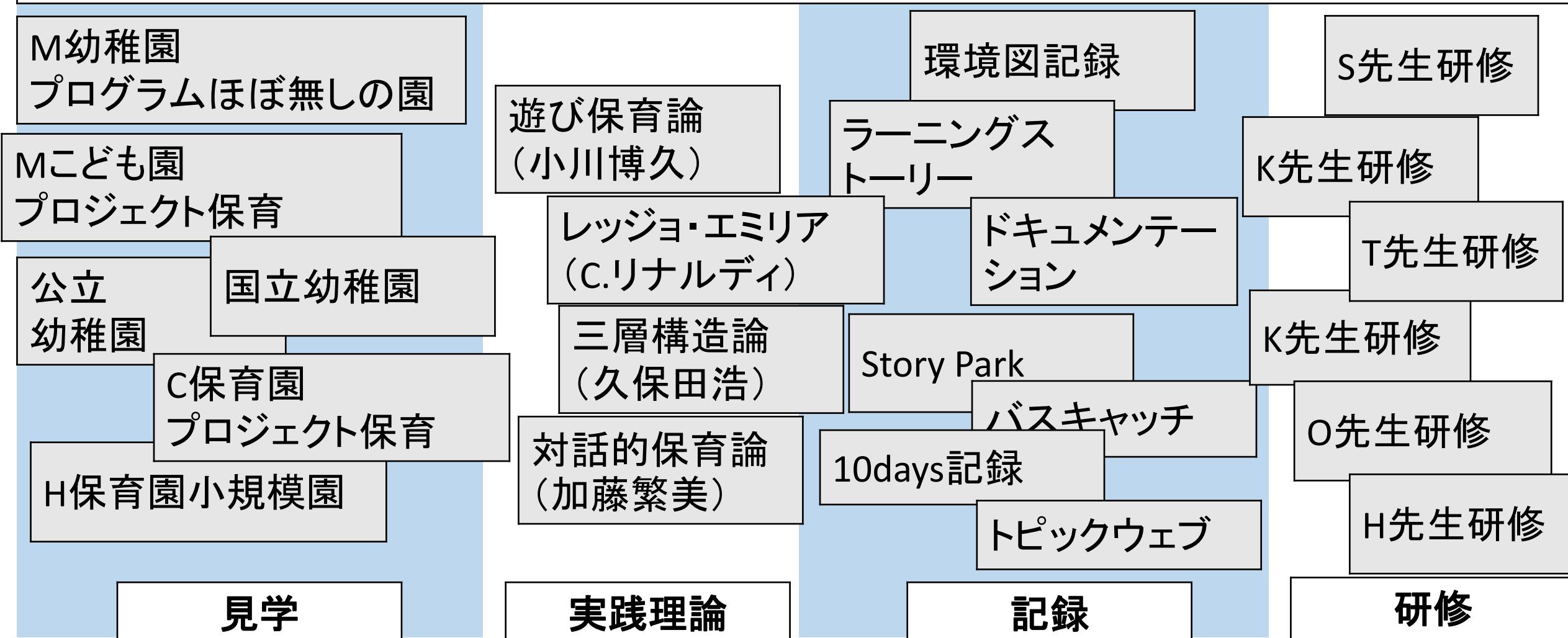
A・B・D子

環境と関わりながら目的が生まれていく

保育者の幼児理解と  
環境構成の力の表れ

保育者の知識・技術の発信、  
教材選択の力の表れ

# まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景



→「上村園長は、様々な理論、記録、園見学、研修の機会を先生たちに与えていたが、何を選ぶかは、先生たちにゆだねていた」(複数の他園園長の談)

# まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景

ゆだねられた先生たちは、実践しながら、主体的に選んでいった。

結果、【偶然に】一貫した理論・道具・事例がそろった。  
(偶然のように見える必然だったのかもしれないが)

理論	保育実践の理論 (話し合いの共通言語)	遊び保育論 見る一見される 遊びの伝承	小川
道具	具体的手立て	(環境構成)コーナー保育/製作コーナー/わらべ歌 (記録法 )10デイズ記録	小川 河邊
事例	行動目標・評価 (実践改善につながる理想のイメージ)	実践研、保笑会 (定期的な事例発表 & 検討)	河邊

→一貫した「理論・道具・事例」の3点が【偶然】強い幹として残り、保育方法を変える力、遊びの質を深める力になっていったのでは？

# まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景

## 遊びを中心とした保育

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども一人の遊びのイメージが、集団の遊びに影響を与えることにより、集団の遊びのイメージが一人の子どもの遊びへ影響を与え、次第に目的のもとに協力し合う仲間関係が育つことがある。</li><li>・子ども達はお互いに刺激しあいながら、新たな遊びの目的を自分達で見つけていく。</li></ul>
保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育者が、この複雑さを読み解き、援助を行うと、遊びが深まり、広がる。</li><li>・子どもに必要な経験をもたらすことができる。</li></ul>

→目的をもう一度述べることで、まとめとします。D先生の章へ！

## 引用文献

小川博久「遊び保育論」(2010) 萌文書林

小川博久「遊び保育のための実践ワーク」(2014) 萌文書林

川田学「エコロジカルシステムとしての「保育」の評価試論」(2018) 保育学研究

「遊びの三角形」理論が掲載されています

河邊貴子「遊びを中心とした保育ー保育記録から読み解く援助と展開ー」  
(2005) 萌文書林